

令和4年度 田名地区まちづくりを考える懇談会結果報告

- 1 日 時 令和5年1月24日（火）午後6時から午後7時40分まで
- 2 場 所 田名公民館 大会議室
- 3 市側出席者 本村市長、隠田副市長、田野倉中央区長、榎本市長公室長、山口都市建設局長、若林地域包括ケア推進部長、大島中央区副区長
川村市民局長
- 4 出席委員等 16人
- 5 傍聴者 5人
- 6 懇談会の要旨

テーマ	地域コミュニティの活性化について
概要	<p>田名地区では、住みやすいまち、住み続けられるまちにするため、日々、地域住民が担い手となり、自治会活動をはじめ、防犯活動や福祉見守り活動、支え合い活動などに取り組んでいる。しかしながら、高齢化や自治会加入者の減少などを理由に地域活動の担い手が減少している状況である。田名地区まちづくり会議では、これを地域の課題として捉えて議論を重ねるとともに、各団体では取組状況のとおり取り組んでいるところである。</p> <p>一方、相模原市では「さがみはらみんなのシビックプライド条例」を制定し、市長は「子育てするなら相模原」「第2・第3の人生を過ごすなら相模原」等を掲げ、市役所全体でシビックプライドの向上に取り組んでいることと承知している。こうした取組の基礎には「地域コミュニティの活性化」があり、市役所（行政）と地域住民（市民）が両輪となって推進していく必要があると考えている。</p> <p>そのため、自治会加入者や地域活動の担い手の減少が進行している現状において、市はどのように「地域コミュニティの活性化」を図ろうとしているのか、次の項目について市の取組等を伺うとともに、市と地域が協働して行うことができる取組について懇談したい。</p> <p>まず、シビックプライド条例についてであるが、条文では抽象的であるため、具体的に市は地域住民に対して何を求め、市はどのような取組を行っていくのかを伺いたい。</p> <p>次に、地域コミュニティ事業への支援についてであるが、田名地区では、地域住民が集まれる場として公民館や「和い輪い田名」（地区社会福祉協議会運営の地域交流拠点）、地域おしゃべりサロンがある他、移動販売車やキッチンカーが来ることによって住民同士の集いの場となっている地域もある。これらの取組によって、地域住民の関係性の向上につながっているものと考えている。</p> <p>今後は運転免許証の返納が進み、多くの方が公民館等の拠点施設まで足を運ぶことが困難になるのではないかと懸念している。このため、空き家となっている民間施設を借り上げるなどして、より身近な所で住民同士が集まれる場を創出できないかと考えており、これに行政から支援をいただくことはできないか伺いたい。</p> <p>また、田名地区では、交通が不便な地域があることから、通院や買い物等のために高齢者の移動手段を確保する必要もある。このため、コミュニティバスや乗合タクシー等市内における取組事例があれば伺いたい。</p>

<p>地区の取組 状況等</p>	<p>まちづくり会議では、さがみはらポイント制度の実施や、子どもを対象とした事業を検討することで、地域活動の担い手を創出していく取組を実施してきた。地区自治会連合会では、自治会加入促進部会を設置し、ホームページの見直しや自治会の状況調査等を継続して取り組んでいる。地区社会福祉協議会では、住民同士の繋がりを深め、助け合える関係や仕組みづくりの一環で「田名ふれあい交流農園」の開園や「和い輪い田名」の開設などを行ってきた。</p>
<p>市の取組 状況等</p>	<p>「さがみはらみんなのシビックプライド条例」では、シビックプライドを「相模原市に対する誇り、愛着及び共感を持って、まちのために自ら関わっていかこうとする気持ち」と定義しており、「相模原市と関わりのあるみんな」のシビックプライド向上と、「さがみはらファン」が市内外にあふれ、誰でも自慢したくなるまちになることを目的に制定したもので、将来にわたり誇れるまちづくりを推進するための基本理念を皆様で共有するものとなっている。</p> <p>本市では、計画的なまちづくりを進める指針となる「未来へつなぐさがみはらプラン～相模原市総合計画～」を令和2年3月に策定し、基本構想に掲げる将来像である「潤いと活力に満ち 笑顔と希望があふれるまち さがみはら」の実現に向け、総合計画におけるすべての政策に共通する基本的な取組の姿勢の一つとして、市民の皆様や自治会などの地域活動団体、NPOなどの市民活動団体、企業、学校や研究機関などとの「協働によるまちづくり」を掲げている。</p> <p>シビックプライドの向上は、協働によるまちづくりを進めるための重要な要素と考えており、まちづくりへの参画意識の向上や地域活性化が図られることにより、魅力的なまちと認識され、定住人口や関係人口の確保につながることから、持続可能な地域社会の形成につながるものと考えている。</p> <p>令和元年に学識経験者や公募市民等で構成する「シビックプライドの推進に関する検討委員会」を設置し検討を重ねた結果、全国の自治体で初となる本条例を制定し、令和3年4月1日に施行した。これまで、広報紙や市ホームページへの掲載、自治会掲示板へのポスターの掲示やチラシの配布を行うとともに、SNS等の活用やイベント会場でのPRブース出展などにより条例の周知を図ってきたほか、令和2年3月に、ファンサイトの「S a g a m i h a r a F A N F U N F A N」を開設し、本市のPRページの作成やファンによる画像の投稿、またInstagramを活用したフォト・絵画コンテストの開催や小中学校での出張授業により、本市の魅力を発見、再認識していただく取組を進めている。</p> <p>今年度中にシビックプライドを高める取組を効果的かつ計画的に推進するための計画を策定する予定としており、令和5年度以降は、この計画に基づき進めていく。市の具体的な取組としては、計画に「継続居住促進」「認知度向上」「転入促進」の3つの目標掲げる予定で、目標達成のために、市総合計画に基づく取組や分野横断的に取り組む重点テーマである「少子化対策」「雇用促進対策」「中山間地域対策」の着実な推進を図っていく。</p> <p>また、本市が有する多様な地域資源、観光資源の磨き上げや効果的な活用を図るとともに、地域住民や団体、市内事業者と連携しながら、本市の新たな魅力の発掘に取り組み、相模原市に関わりのある皆様に効果的に発信していく。その他、市民等の多様な主体が連携、協働をし、地域課題の解決をはじめ、各地域の特性を生かした魅力的なまちづくりや担い手の育成、市政や地域に参加しやすい環境づくりを</p>

推進していく。

条例では市民の役割として「相模原市への関心を持つこと及び魅力の発見に努める」としている。条例では、皆様にシビックプライドを持つことを強制するものではなく、個人の思いを尊重することとしており、この役割についても義務を課すものではないが、地域住民には本市や地域の魅力の発掘、発信に努めていただきたいと考えており、田名地区の皆様にも、田名地区や他地区に足を運び、市内各所にある魅力を知っていただければと思っている。

自治会や公民館を中心に、お祭りや地域の伝統行事などのほか、体育祭や防災訓練、清掃活動や社会教育など、様々な事業に取り組まれていると承知している。こうした取組もシビックプライドの向上には欠かせないものであり、参加される方や、自らこうした事業に関わっていきこうとする気持ちを持った方を温かく受け入れ、この地域のさらなる活性化につなげていただきたい。市としても、こうした事業を含め田名地区が持つ魅力などを積極的に発信していきたいと考えている。

(榎本市長公室長)

高齢者の介護予防等を目的として、住民団体やボランティア団体等が軽体操や茶話会などを行う「通いの場」を運営するための通所型のシニアサポート活動を実施する場合、「集まれる場」として空き家等を活用する際には、年間最大24万円の補助金が活用できるほか、介護予防の活動団体を立ち上げる際に、活動開始から概ね3年間を限度として、年間5万円を上限とする「生き生きシニアのための地域活動補助金」でも、空き家等の「集まれる場」の借り上げ料に活用できる。

いずれの補助金にも利用時の要件があるため、詳細については高齢・障害者支援課にご相談いただきたい。また、活動場所などの活動全般に関するご相談や具体的な支援については、市社会福祉協議会のコミュニティソーシャルワーカーや地域包括支援センターでも行っているため、田名地域包括支援センターなどを通じてご相談いただきたい。

今後はより身近な場所で、サロンをはじめとした住民同士の集いの場がさらに創出されるよう、引き続き地域ケア会議などにおいて各活動団体の連携を図り、担い手の発掘、育成や既存の地域団体の活動継続に向けた支援について、周知啓発に取り組んでいきたいと考えている。

(若林地域包括ケア推進部長)

公共交通の体系を樹木に例えると、市と市外とを結ぶ鉄道などの「幹の交通」、市内を運行する路線バスやコミュニティバスなどの「枝の交通」、自転車や時速20km未満で公道を走る電動車を活用した移動サービス「グリーンスローモビリティ」など、バス停までの移動手段などの地域内の身近な交通である「葉の交通」の3つに分類することができる。

現在、市内ではコミュニティバスを大沢地区と大野北地区で運行している。当該地区は、市の指定する交通不便地域となっているが、地域の方から当該地区へのコミュニティバス導入の要望があり、本市で定めた一定の条件を満たすものであることから導入に至った。また、中山間地域の移動手段として乗合タクシーを根小屋地区、内郷地区、吉野・与瀬地区、菅井地区で運行しており、これについても地域の導入要望をもとに運行の実現をしたものとなっている。

コミュニティバスや乗合タクシーは導入や運行継続で基準を設けており、既存の

	<p>バス路線と競合しないことや、一定の利用数などの基準を達成する見込みのある場合に、地域からの相談により協議をする制度となっている。現在運行している地区については、地域住民や運行事業者と協働し、運行維持のための利用促進策を実施している。</p> <p>新規導入について地域から要望がある場合は、本市で設定した導入条件をもとに地域と一緒に実現可能性を検討するものの、現状では、路線バスと競合することや交通不便地域が点在していることから、新たに導入できる可能性のあるエリアが少ないものと考えている。田名地区では、平成21年ごろから導入の検討をしたものの平成23年に中止になった経緯があると伺っているが、10年が経過し取り巻く状況が変化していることから、今後対応していく必要があると認識している。</p> <p>市では、小さな移動需要や様々な移動ニーズに対応するため、既存の公共交通との競合に配慮しつつ、地域主体で検討する移動手段確保策の取組への支援を「相模原市総合都市交通計画」に位置付けた。環境省が実施している「令和4年度グリーンスローモビリティの導入にかかる調査・普及促進事業」における導入検証地域の一つに城山地区の若葉台が選定され、令和5年1月18日にはゴルフ場で用いるような電動カートを使用しテスト走行を実施した。</p> <p>今後は若葉台に加え、新磯地区でもグリーンスローモビリティを活用した地域住民ドライバーによる移動手段確保の可能性を検証する。令和5年度は、それぞれ2か月間の実証運行を実施し、検証後は再度2か月間の実証運行を行い、運行計画を見直していく予定で、令和6年度は、見直した運行計画をもとに通年にわたる実証運行を行い、令和7年度の本格運行を目指す。2地区の実証運行を通じて、導入や運行継続の基準等を定めた「グリーンスローモビリティ導入手引き」を令和6年度末までに作成し、令和7年度以降の他地区への展開を目指す。</p> <p>高齢者の移動支援については、以前から藤野地区や光が丘地区において、地域住民が地域の社会福祉法人と連携し、高齢者の送迎支援を実施している。市では、高齢化による免許返納などにより、買物や病院等への外出が困難な方が増えており、地域の実情を踏まえた地域住民の支え合いによる移動支援の取組を促進するため、令和元年度から「高齢者移動支援推進モデル事業」を城山地区と麻溝地区をモデル地区として実施している。</p> <p>今後は、モデル事業の成果を踏まえ、令和5年度から、地域のボランティア団体に対する補助制度を創設し、団体の活動を支援していくことを予定している。</p> <p style="text-align: right;">(山口都市建設局長)</p>
--	---

懇談内容	
地区の発言	<p>田名バスターミナルから原当麻駅方面へ行くバス路線があるが、運行経路である県道鍛冶谷線の周辺には住宅はわずかしがなく、住民が多い陽原地区や望地地区、田名団地などからはそのバス路線の利用は難しい。当該地区の道は狭く、市が想定するコミュニティバスの車両での運行は困難であると考えており、以前にワンボックスカーのような小型の車両での運行を提案したことがあったが、その後、市でそういった検討がされたのか伺いたい。</p>
市の発言	<p>道路が狭くバスを走らせることが困難だという話は他地区でも出たことがある。</p>

	<p>旧市域についてはコミュニティバス、津久井地域については乗合タクシーを基準として検討を始めた経過があり、それが今も存続している状況である。田名地区では平成21年に検討が始められたことは承知しており、協議会の皆様との対話において現状等を伺いたいと考えている。</p> <p>田名バスターミナルから原当麻駅方面へのバス路線が存在する関係上、併走して新たにコミュニティバスを走らせることは非常に難しいと考えている。しかし、その路線のバス停まで行くのが不便な場合に、例えばグリーンスローモビリティのようなものを使い、県道から少し離れた住宅地を経由し、住民の方を拾いながら望地キャンプ場バス停で降ろす、といったことも考えられる。グリーンスローモビリティ導入の関係で各地域と対話をする中でも、自宅玄関からそのまま出掛けていける点が好評との話も出ており、今後も様々な検証をしながら取組を進めていきたい。</p> <p style="text-align: right;">(山口都市建設局長)</p>
<p>地区の発言</p>	<p>現在ある路線を廃止して、路線としてのコミュニティバスも当然考える必要があるかと思うが、その部分を含めて検討はされているのか。</p>
<p>市の発言</p>	<p>コミュニティバスは、公共交通等がない交通不便地域での導入ということで始まった事業と認識しており、コミュニティバスに利用が集中してしまうことで、公共交通である路線バスが衰退し、赤字補填をする状況になることも考えられる。また、増便や終バスの繰り下げを働きかける必要もあると思っており、市の地域交通活性化協議会でも伝えていきたい。</p> <p>ただし、ほとんどのバス路線について存続を希望している現状において、それを廃止して代替で市がコミュニティバスを運行することは難しく、現在ある路線は維持しつつ、足りない部分をどう補うかが今の考え方である。(山口都市建設局長)</p>
<p>地区の発言</p>	<p>公共交通としてのコミュニティバスの導入は、路線バスから一定以上の距離が離れていなければならない原則があると認識している。しかし、交通不便の解消には、現在の路線バスの代替となるよう、仕組み自体を地域に合わせて臨機応変に検討することも必要ではないか。地域住民の不便解消という福祉の面や住民対策も含めれば、別の観点からも検討すべきだと考える。</p>
<p>市の発言</p>	<p>交通不便地域の対策については、市長からも指示があり、市長公室を筆頭に、福祉部門や教育委員会等も含め庁内横断的に取り組んでいる。その中で各地域の実情等を踏まえながら、今後取組内容を検討していきたい。(山口都市建設局長)</p> <p>交通不便地域の対策は、この4年間で地域からの要望が一番高いと感じている。藤野地区や津久井地区のスクールバスの日中における活用や、廃止寸前の福祉バス1台をワゴン車3台に変更し、機能性を高めたうえで日中の活用を検討するなど、各部局が連携して取組を進めたいと考えている。</p> <p>大沢地区と大野北地区で運行しているコミュニティバスは、年間約5,000万円の経費がかかっている。コミュニティバスの持続性を考えた際、現状で本当によいのかといった議論や、ワゴン車など機動性を活かした形の方が経済的かつスピーディーにできるのではといった考えもあるので、今後も皆様と対話しながら公共交通政策を考えていきたいと思う。</p> <p>若葉台と新磯地区では、来年度からグリーンスローモビリティの実証運行を行うが、例えばゴルフカート以外にも様々な形態があるかと思うので、地域と相談しな</p>

	<p>がら、市としても検討していく。皆様も、ぜひ一緒に地域の公共交通の対策に取り組んで頂きたい。</p> <p style="text-align: right;">(本村市長)</p>
地区の発言	<p>小田急多摩線の延伸について、鉄道が前提なのか、それともバスなど他の移動手段を探ることはないのか、考えを伺いたい。</p>
市の発言	<p>小田急多摩線延伸については、国の機関である交通政策審議会に諮問がなされ、延伸の意義があるとの答申を受けて、実現に向けて検討しているところである。</p> <p>収支採算性の試算では、唐木田駅から上溝駅までの建設費が約1,300億円、黒字転換まで約42年かかり、唐木田駅から相模原駅までは約870億円、約26年で黒字転換するとの結果が出た。適用にあたっては、30年未満での黒字転換が目安としてあるが、当該路線については、過去の答申における、今後整備について検討を要するBランク相当の位置付けにあり、町田市や東京都等の関係自治体や小田急電鉄の協力も必要となってくる。</p> <p>市としては、今後も諦めずに鉄道延伸に向けて働きかけていくべきだと考えている。現時点で小田急電鉄は、延伸は経営方針にないと話しているが、検討中の相模原駅北口の土地利用計画を今後発表していく中で、住民の数など具体的な将来像を示せば、先方も延伸に向けての取組を検討するのではないかと考えている。様々な課題を整理しながら諦めずに進めていく事業だと思っており、現時点で代替の交通機関を検討することは考えていない。</p> <p style="text-align: right;">(山口都市建設局長)</p> <p>これまでBランク相当の中で、都心部以外で延伸が決定したものは一つもない。平成26年度には延伸の早期実現に関する要望として、約18万人分の署名を国に提出した。その後、意義あるプロジェクトとして答申されたことで、当時は非常に喜ばしいことだと感じた。市としては、今後まちづくりをしっかりと示し、延伸を諦めずに進めていきたいことを先方に伝えており、小田急電鉄からも、技術革新が進んだ場合は延伸の可能性があるかと話を承った。</p> <p>相模原市にはやる気があるものの、東京都や町田市には他の優先路線がある。優先順位を一つでも上げていけるように、関係する自治体にもお願いに行きたいと考えている。しかし、小田急多摩線の延伸を待ちきれないようなお話もいただく中で、延伸までの間グリーンスローモビリティやコミュニティバス等の代替輸送が必要だという提案などがあれば、議論する余地もあると考えている。</p> <p style="text-align: right;">(本村市長)</p>
地区の発言	<p>シビックプライドについて、市全体で見れば、リニアや津久井の自然等の色々な要素があると思うが、田名地区の魅力は何なのか。相模川河川敷でのバーベキュー等は一つの魅力かもしれないが、今までやっていた「泳げこいのぼり相模川」は担い手不足や資材更新等の要因で止めざるを得ず、相模原納涼花火大会もだんだんと条件が厳しくなっている。花火大会開催時は渋滞が発生することで、地域住民には花火大会の期間は不便と感じる人もいる。市全体としては、こうしたイベントは外からかなりの人が来て、シビックプライドの上では一つの要件になるものの、担い手の不足や予算の関係で存続も危ぶまれている状況にある。</p> <p>空き家対策についても、運営の部分は地域が担っており、自治会の加入率低下や担い手不足等で制約が生じてくる。そういう意味では、シビックプライドを高める、発信すると言っても難しいと考えている。</p> <p>田名地区のシビックプライドを高めるために、何を前面に押し出していくのか、</p>

	<p>市長から参考に伺いたい。</p>
市の発言	<p>市内各区、各地区で特色が違うと思っている。田名には子どものころ母と2人で花火大会や鮎釣りによく来ており、夏祭りなど様々なイベントもある。昨年には「和い輪い田名」を視察し、地域コミュニティの素晴らしさを感じた。毎日ボランティアの方々が出てきて、居場所を皆様で作って運営していく活動こそがシビックプライドだと思っており、皆様で熱い思いを持って、まちづくりを積極的にやることが素晴らしいことだと思う。</p> <p>地域のイベントも素晴らしいシビックプライドの一つかもしれないが、72万市民一人一人が地域で生き生きと自分らしく活動していくことこそがシビックプライドの原点だと思っており、田名の公共交通に関する活動もシビックプライドに繋がっていくものと考えている。 (本村市長)</p>
地区の発言	<p>「和い輪い田名」ではボランティアの高齢化が進んでおり、子ども会もほとんどが消滅しているなど、地域の様々なところで担い手が不足している。今後は若い人を担い手として呼び込まなければ活動が継続できないため、地域コミュニティの維持に向け、市が地域の担い手を具体的にどう確保していくのか伺いたい。</p> <p>また、さがみはらポイントについて、私たちはそれを一つの起爆剤としながら担い手を養成していこうと考えたものの、国の制度が終わったらそれきりで、市の独自の制度として新たな措置がある訳でもなかった。</p> <p>市全体で自治会加入率が低下していることは、コミュニティ支援に対する関心が薄れているのではないかと思う。真剣に考えていかないと、市が考えるようなシビックプライドの向上は難しいと思う。</p> <p>市全体でも担い手の不足は生じていると思うので、持続的な発展のために行政施策として何か新しいものを打ち出して欲しいと考える。</p>
地区の発言	<p>田名には、江戸時代に鮎を江戸城に献上していた人が住んでいたことに由来がある鵜飼免という地名がある。観光地や田名の活性化等のためにも、田名での鵜飼いや鵜匠の育成について要望したい。</p>
地区の発言	<p>子どもたちと公民館の事業で行った新堀用水には、以前は水路の脇を渡りながら泳ぐ緋鯉を鑑賞できたものの、水が流れておらずごみが散らばっていた。中央区役所の方が田名は自然豊かだと言われていたが、以前の自然からはかなりダウンしていると思っている。望地用水路には蛍が生息しており、2月中旬には各地域の高校生やボランティアに清掃をお願いしようと思っているが、周辺の田んぼも含めて以前の自然は失われていると感じている。</p> <p>田名は本当に自然豊かなのか、少し考えて欲しいと思う。</p>
地区の発言	<p>免許返納を考える歳になったが、通院できるか心配している。相模原協同病院が移転したことで、これまではバスで直接行けたものの、今度は乗り換えなければならなくなった。10時ごろに一本だけ直接相模原協同病院へ行くバスがあるものの、その時間帯では誰も利用しないと思う。</p> <p>相模原協同病院への移動手段として、榎戸や上大島などバス沿線の住民も利用する機会があると思うので、本数や時間帯などを検討してもらえるとありがたい。</p>
市の発言	<p>担い手の問題については、田名地区に限らず全市的な課題であると認識しており、例えば民生委員や児童委員、消防団員も欠員が多い状況である。民生委員は協力員制度、消防団は学生消防団等の施策を講じているものの、厳しい状況が続いて</p>

	<p>いる。市でも施策を検討していきたいが、まずは若い人が担っていこうという気持ちを持ってもらう必要があると考えている。</p> <p>シビックプライドについては、住民に相模原を知ってもらい、まちに関わりたいという気持ちを醸成した上で発信をしてもらえれば好循環になると考えている。</p> <p>交通については、城山地区や藤野地区、新磯地区等で社会福祉法人の車を使用し、買物や通院補助の取組を実施しているが、今後は市内12地区程度に広げるため、来年度には補助制度を創設するほか、介護予防事業の中でもそうした仕組みも充実させていこうと考えている。3月には取組事例について紹介する場を設ける予定なので、ぜひご参加いただき田名地区での取組に活かしていただきたい。</p> <p style="text-align: right;">(隠田副市長)</p>
<p>地区の発言</p>	<p>田名地区の住民で相模原協同病院に行く人は多いと感じる。血液検査等をしてから診察をする場合を考えると、行きは8時ぐらいにして欲しい。帰りも夕方に1本だけしか無く、診察が終了した後は橋本駅を経由せざるを得ない。停留所も、田名バスターミナルからではなく、水郷田名のバス停から相模原協同病院を回り橋本駅へ行くなど、経路を工夫して欲しい。</p>
<p>市の発言</p>	<p>相模原協同病院のバスについては、田名地区でも、令和元年12月に病院移転に伴う路線バスの新設要望を出していただき、朝と夕方の1往復の便を新設いただいたところである。市からも神奈川中央交通に対してさらなる路線の充実について要望はしているものの、改善されていないのが現状である。 (山口都市建設局長)</p> <p>相模原協同病院からも、津久井地域と田名地域からの交通不便がネックだと話しを伺っており、今後も引き続き神奈川中央交通には要望していきたい。津久井からも、これまでは直接バスで行けたものの、一度橋本駅に行き乗換えが必要となったことから、交通費の負担や健康面からも課題と感じており、今日の意見も含め、神奈川中央交通には引き続き伝えていきたい。</p> <p style="text-align: right;">(本村市長)</p>
<p>市長の感想等</p>	<p>公共交通や担い手など様々な話が出てきたが、1年に1回、1時間半では時間が足りないと実感している。皆様の力も借りながら、新しい発想で市民の皆様に寄り添って対応していきたい。区長や副区長も私の代わりとして、ぜひ地域の活動やイベントなどの話を伺いたいと思っている。また、今後を担う若手職員の発言もすべて相模原市の発信の言葉であるので、ぜひご理解いただき、一緒に相模原市を盛り立てていきたいと思っている。</p> <p>今日は田名地区の様々なことを勉強させていただき、田名地区のことがより好きになった。今後も呼んでいただければぜひ参りたい。 (本村市長)</p>